

月刊 ととろ



独立行政法人国立病院機構
いわき病院

第176号

平成30年9月発行

National Hospital Organization Iwaki National Hospital

信条

- ◆ 患者さま本位の医療を行います
- ◆ 患者さま及び家族の生活を大事にします
- ◆ 科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供します

本部完成検査実施 まもなく竣工引渡し



正面玄関



総合受付



昼の職員宿舎 南面



夜の職員宿舎 北面

台風21号による近畿地方への高潮被害、北海道胆振東部地震による大規模停電をおこしたブラックアウト。

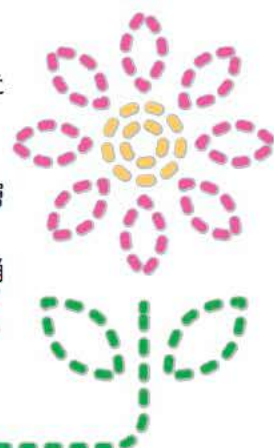
被害に遭われた方々へ謹んでお見舞い申し上げます。

当方も北海道出身なので動揺を隠せず、いわき病院も震災を経験しているとはいえより一層防災意識の向上に努めなければいけないと痛感しております。

さて、新病院の工事につきましては植栽関係を残してはいますが、ほぼ完成状態であり、消防検査や建築検査もつつがなく進めているところです。

残すは本部完成検査での大がかりなチェック作業ですが、施工業者共々気を引き締めて取りかかる所存であります。

(文責：業務班長)



平成30年度 いわき地域医療セミナーについて

いわき市では、地域医療を担う優秀な人材を大学と連携し育成することを目的として「いわき地域医療セミナー」を実施しており、そのセミナーのカリキュラムのひとつである医療型障害児入所施設の施設見学が、8月8日に当院で開催されました。

当日は福島県立医科大学3年生11名、帝京大学医学部3年生1名の計12名が訪れ、院長講話、病院内見学、意見交換が行われました。

院長講話では、当院で行っている神経難病医療、重症心身障害医療、ロボットスーツを使用したリハビリテーション及び来年2月に移転開院する予定となっている新病院についての説明があり、病院内見学では神経難病・重症心身障害病棟を見学しましたが、医学生が神経難病の患者さんとの文字盤等を使いコミュニケーションを図った際に、患者さんからは「将来、立派なお医者さんになって、自分達の病気を治してね。」と声を掛けられていました。リハビリテーションについては、実際に医学生がロボットスーツを着用し体験してもらいましたが、「すごい!」といった驚きの声があがりました。

最後に当院の医師、看護師、理学療法士、児童指導員との意見交換会を行い、医学生からは様々な質問や感想があり有意義な3時間でした。引率の先生からは来年も見学を受け入れていただきたいとお言葉をいただき、当院におきましても引き続き地域医療への貢献となればと考えております。

事務部長：佐藤 修一



喀痰吸引等研修

いわき病院では平成26年度より「介護職員等による喀痰吸引等研修（第三号）」に取り組んでいます。この研修は本来医療職のみが対応可能な痰の吸引や経管栄養等の医療的ケアを介護職の方々にも行っていただくためのものです。これらの医療的ケアは日常的に頻回に必要であり、かつ安心・安全に行われなくてはなりません。介護職の方々にも研修を受けていただくことで、これらの医療的ケアを含んだサービス提供が可能になり、患者様のQOLの向上へとつながります。

本研修は基本研修と実地研修のセットとなります。基本研修は年3回、受講希望が多数あった場合には追加でも行い、実地研修は適宜申し込み時に対応しています。基本研修では副看護師長が中心となり講師を担い、座学とシミュレーター（模擬患者人形）を使用した実習で懇切丁寧に指導しています。

今年度は残り1回、11/29～30の予定で、9月末から受付開始です。本研修の趣旨をご理解いただき多数ご参加いただければ幸いです。お問い合わせは医療相談室までお気軽にどうぞ。

医療相談室 MSW：小野 可奈子





高校生 一日看護体験



7月25日、男子1名を含む、11名の高校生が一日看護体験のために来院されました。看護師を目指す高校生達は、白衣に着替えたところから、大変嬉しそうでした。看護師の基本である手洗いでは、洗い残しを目で見て確認し、意外に洗えていない事に驚く様子は、かわいらしさがあふれていました。車椅子での移送や食べ物を飲み込む力が弱い方への食事援助について自分自身で体験してみると難しさも感じたようです。最初は緊張も見られましたが、徐々に笑顔になり、積極的に患者さんに話しかける姿が印象的でした。

意見交換では、「看護師の気分になった」「看護師の笑顔があると患者さんも楽しそう」「ふつうに食べられることの幸せを感じた」などの意見が聞かれ、看護について関心を高めることができたようです。私たちも若くエネルギー溢れる高校生たちに元気をいただきました。

第1病棟 副看護師長：齋藤 久美子

平成30年度第2回地域連携研修会に関するお知らせ

筑波大学大学院人間総合科学研究科 准教授山田 実先生にフレイル・サルコペニアの予防・改善や、運動と栄養と有用性等に関する御講演を頂く予定です。多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成30年11月27日（火）18:30～19:30（予定）

講演内容：「フレイル・サルコペニアの予防・改善や、運動と栄養と有用性」（仮称）

場 所：いわき市総合保健福祉センター 1階多目的ホール

講 師：筑波大学大学院人間総合科学研究科 准教授 山田 実先生

NHO PRESS ~国立病院機構通信~



いわき病院は、全国 141 病院からなる国立病院機構（NHO：National Hospital Organization）のひとつです。

NHO では各病院の活動を紹介する『NHO PRESS』を発行しています。外来待合室などに設置しています。ぜひご覧になってください。

国立病院機構ホームページでは最新号と過去の『NHO PRESS』を掲載しています。

NHO PRESS

検索



いわき病院の診療体制等について

- 診療科目 内科、神経内科、外科、脳神経外科、小児科（小児神経疾患）、リハビリテーション科
- 外来受付 8:30～11:30（ただし、救急患者は随時受け付けております。）
- 診療時間 8:30～17:15 ※金曜日の内科は、鈴木または代診の医師が担当します。

外来担当医師診療日程表 【平成30年7月～】

区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	内科 診察室① 鈴木 栄		診察室① 鈴木 診察室② 齋		診察室③ 高橋 ほか
	神経内科 診察室③ 尾田宣仁	診察室① 會田隆志	診察室③ 會田隆志	診察室① 関 / 會田 (交代制)	診察室① 関 晴朗
	外科			診察室② 田崎 博	
神経内科専門外来（予約制）					
午後	神経難病 神経筋疾患 《診察室①》		(神経内科) 関 晴朗		
	小児神経外来（予約制）				
後	小児神経外来 《診察室①》 (小児科) 柳沢俊郎				(小児科) 柳沢俊郎



お知らせ

◆患者相談窓口

患者さんやお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談窓口』と『ご意見箱』で対応しています。なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

◆当院受診について

他の医療機関に通院中の方は、主治医の先生に当院病診連携を通して診療予約をとって頂いた上で来院願います。



発行元 **独立行政法人国立病院機構 いわき病院**
National Hospital Organization Iwaki National Hospital
責任者 院長 関 晴朗
〒970-0224 福島県いわき市平豊間字兎渡路291番地
TEL 0246-55-8261 FAX 0246-55-5052
ホームページ <http://iwaki-hosp.jp/>